

■自己評価の基準 A:おおむね達成できた B:少し達成された C:あまり達成されず D:達成には程遠い					■学校関係者評価の評価基準 A:おおむね評価できる B:少し評価できる C:あまり評価できない D:まったく評価できない	
番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
1	教育課程指導計画	授業計画に基づき、所定の時間の授業・実習を実施することができた。高等教育の修学支援新制度認定に向けて、授業計画書(シラバス)を整理した上で、学生にも配布した。	A	授業計画書等を、HPに開示する。	A	シラバスを配付したことにより、学生が学習内容により興味・意欲を増したのではないかと、加えて教師自身も授業計画の向上に役立てたのではないかと評価できる。
2	学生指導	出席時数不足の学生に対して、7月・12月に補充指導を行った。前年度よりも欠課時数は減少している。一方で、ピアス等の指導が徹底できなかった。	B	全職員が、同じ指導(化粧・ピアス等の指導において)を、足並みを揃えて行う。	B	清潔な身だしなみで、リスクの意識を高めてもらいたい。衛生面と見た目の清潔感の大切さ、心構えを今後も引き続き指導して欲しい。
3	進路指導	進路希望調査と面談に基づき、常勤のみならず非常勤講師ともその情報を共有しながら、進路希望に応じた指導を行った。	B	今後も、情報の共有を引き続き行う。	B	インターンシップへの参加者wpさらに増やして欲しい。一人ひとりへの対応をこれからもお願いします。
4	外部検定	1月8日に反省会議を実施しているため、評価項目から割愛した。				
5	広報宣伝	学校紹介パンフレットは6月に改訂した。「yamacho BLOG」の定期的な更新が、閲覧数増加に繋がっている。	A	2021年度の学校紹介パンフレット作成に向けて、情報収集を行う。	A	学校紹介に外部講師の先生方のプロフィールや店舗名などの記載があれば、より身近に感じると思います。
6	学生募集	積極的な学校訪問や会場説明会に参加することにより、AO入学やキャリア入学、教育訓練給付制度の指定等の周知に務めたが、入学者増には結び付かなかった。	B	オープンキャンパスの案内は常勤職員で手分けして行い、時期を捉えた学校訪問を行う。	B	オープンキャンパスの参加者が減少していることから、次年度以降の取り組みを強化していただきたい。
7	関係団体連携	作品コンクールにJA全農山形の協賛を得て実施(取材TV3局、新聞2社)したほか、社会福祉協議会やシルバー人材センター等の事業に講師を派遣した。	A	継続実施する。	A	外部発信のよい機会であり、食への関心が社会に高まっている中、更に積極的に取り組んでいただきたい。

8	地域貢献	本校主催の料理教室を2回計画、前年度を上回る参加者数を得て好評のうちに実施できた。	A	教室の案内をどう行うか(市報を利用するか)、課題は残る。	A	前年を上回る参加者は評価できる。参加者の拡大方法については、案内範囲を広めるか数種の広報を利用するのが必要と思われる。
---	------	---	---	------------------------------	---	---